



令和三年度第九四回(殉職消防職・団員慰霊祭が、九月六日(月)秋田市千秋公園本丸の「殉職消防組員招魂碑」前において、秋田県消防協会が祭主となり執り行われました。

災害の防止と消防活動の安全を誓う

令和三年度殉職消防職・団員慰霊祭



題 字
初代会長 松野盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 高橋正尚
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

令和三年度全国統一防火標語
**おうち時間
家族で点検
火の始末**

遺族は秋田市在住者をご案内し、消防協会役員など二名が参列しました。神事の後、高橋正尚秋田県消防協会会長が、「ここに合祀されている四七柱の御霊が不屈の消防魂で職責を全うされたその崇高な精神は、県内消防人の鑑であり、我々消防人は御霊のご遺訓を胸に、一致団結して地域住民の安全・安心のため最善を尽くすことを誓います。」と祭主祭文を奏上しました。



神部秀行 秋田県副知事

知事が、「消防職員や消防団員の皆様は、自然災害や火災、事故から県民の生命を守るため、殉職された方々の遺志を受け継ぎ、昼夜を分かたず献身的に消防・救助活動に精励されており。私たちは、亡くなられた四七名のご遺志に応えるため、今後も、消防防災体制の強化に努め、県民が安全、安心に暮らせる社会の構築に向け、全力で取り組むことを誓います。」と慰霊の言葉を述べました。

続いて、玉串奉奠拝礼が行われ、高橋会長、遺族、来賓の方々が御霊の冥福を祈りました。



御来賓の方々



御遺族の方々

第七五期初任教育入校生 殉職消防組員招魂碑を清掃

秋田県消防学校

秋田市千秋公園本丸に建立されている「殉職消防組員招魂碑」の清掃は、毎年、秋田県消防学校初任教育課程の情操教育の一環として行われています。

今年も、九月六日(月)の慰霊祭に先立ち、八月二四日(火)に四六名の入校生によって行われました。

始めに、全員が「招魂碑」に黙とうを捧げた後、碑内の枯れ葉やゴミを除去したり、雑草などを取り除いたほか、碑に付いたコケなどの汚れを洗い流しました。

入校生の皆さん、ありがとうございました。



第二回理事会

秋田県消防協会

一般財団法人秋田県消防協会第二回理事会は、九月六日(月)、令和三年度殉職消防職・団員慰霊祭終了後、イヤタカで開催されました。主な協議事項等は、次のとおりです。

【協議事項】

①日本消防協会定例表彰の上申

特別表彰まといは小坂町消防団、表彰旗は北秋田市消防団、竿頭級は藤里町、由利本荘市、湯沢市の各消防団、その他の表彰についても対象者を決定しました。

②秋田県消防協会定例表彰

各支部から上申されたとおり授与することが承認されました。

- ・ 勤続章 五八〇名
- ・ 功労章 四六名
- ・ 消防団員家族表彰 二家族(六名)

【報告事項】

①令和三年度消防車輛の交付要望

秋田市消防団の要望車両(ワンボックス型)を日本消防協会に申請しました。

②全県消防団長研修会

十一月二日(金)一四時、イヤタカで講演を行います。講師は、兵庫県立大学大学院教授 阪本真由美氏です。

③令和三年度女性消防団ネットワーク会議

二月一日(土)一四時、イヤタカで講演や意見交換を行う予定です。講師は、日本赤十字秋田短期大学講師 及川真一氏です。

④若手消防団員交流会

令和四年二月五日(土)一三時三〇分、イヤタカで講演やグループディスカッションを行う予定です。



75期教育
第1任教

山岳訓練を
終えて

秋田県消防学校



柏谷 康太
(秋田市消防本部)

今回、人生二度目の登山でした。一回目は登山道が整備されていたので、今回の鳥海山は想像を遙かに超える登山でした。

登山の最中は感じなかったのですが、下山直後から疲労が蓄積し、翌日は多くの部位が筋肉痛となりました。定期的に必要な筋肉を動かしておくことで、いざ山岳救助に行く際も万全な状態で臨むことができるのではないかと感じました。

今回は自分たちのペースで登りましたが、実際の救助ではどこかで要救助者が待っています。スピードが求められるほか、自らの安全管理が重要になると感じました。

救助する側が怪我をしては助けられる命も助けられません。教官方が指摘する安全管理について、今一度考えるきっかけになったと思います。

他にも、隊の先頭から末端まで伝言を繋げたり危険を予測したり、我々が行っている訓練の要素が多く詰まっていたと思います。

今回の訓練の教訓を残り二ヶ月の学校生活に活かしていきたいです。



工藤 琉希也
(秋田市消防本部)

今回の山岳訓練で初めて鳥海山に登った。

登山は小学生以来だったので、予想では、きれいに整備された道を進んでいくと思っていたが、まったく違う、とてもきつかったという印象が強い。

雪の中を進んでいたり、ロッククライミングのように進んでいたりして驚きの連続だった。

頑張つて登りきり、山頂で食べる昼ご飯、そして空気がとても美味しく最高だった。

下山では、登りより危険が多いなと感じた。

大変だったが、無事安全に下山できて安心した。

今回の訓練から、登山のきつさをよく理解できた。

その上、さらに要救助者を助けるというのには、本当にすごいことだと思いつつも、自分も早く助ける側の存在にならないといけないと強く思った。

また様々な場面をしっかり想定しながら、日々の訓練や錬成をしていくことが重要だと改めて感じた。



竹村 遥翔
(横手市消防本部)

初めての経験だったので、とても貴重な時間を過ごすことができた。

テンポよく登り、雪道や岩や砂利などを歩き、楽しく仲間と登ることができた。

水や空気もきれいで、改めて自然のよさを感じることができた。

後半、苦しくなったが、仲間と助けあい励まし合って最後まで登れて、とても達成感があり、仲間との絆を深めることができたと思う。

実際の活動では、厳しい環境で長時間の活動になるので、精神力や忍耐力が大事になると感じた。

そのためにも、自分自身の体が一番だと思っているので、無理をせず活動に集中して行うことが必要だと感じた。いかに体に負担をかけずに安全にできるか、そのようなことも勉強することができた。

また、仲間同士、隊員同士の声かけだったり、意思疎通が必要だし、共通の理解をもつて動くということが大切だと学んだ。

今回の訓練では、とてもいい経験ができたし、多くのことを学び、感じることもできたと思う。

この経験を活かして、今後の残りの学校生活につなげて取り組んでいきたいと思う。



山内 優真
(能代山本広域市町村圏組合消防本部)

最初はとてもワクワクしていましたが、登り始めてすぐに雪が積もっていたり、岩がゴロゴロ転がっていたり、歩いていて息が上がっていました。

気付くと汗も滝のように流れていて驚きました。

休憩中にみんなでお菓子を食べて、面白くて笑っていたのも印象に残っています。

こつちの道を進んだ方が良いんじゃないかと呟きながら歩いていると、大きな穴があったり岩で通れなかつたりして、山にはこういう危険があることを肌で感じるようになりました。

とんぼが視界一面飛んでいて、黄色い花も咲いていて、初めて見る景色でした。

下山中、何回も転びました。足もパンパンで本当に大変でした。

山岳訓練を終えて得た知識や学んだ事は、とても多かったと思います。

勤務中に登ることがあれば、助けを求めている人がいる時です。

そこから自分に足りない部分を見つけ、補っていききたいです。

もっと体力を付けていけるように頑張りたいです。



山崎 貴翔
(能代山本広域市町
 村圏組合消防本部)

山岳訓練は、楽しかったこと、大変だったこと、成長できたことがたくさんあり、とても身になる訓練になりました。

楽しかったことは、大自然とのふれあいで心が安らいだこと、頂上からの景色を見て達成感を感じられたことです。七月中旬を迎え気温が日々上昇するなか、山中は涼しくとても気持ちの良いものでした。

大変だったことは、頂上に近づくとつれ道が厳しくなっていたことです。1mや2mを超える岩がたくさんあり、足だけでなく手も使って登る場面がたくさんありました。下りの雪道は滑りやすく、何度も転びました。

成長できたことは、厳しくても諦めない気持ち、常に前に進む気持ちを意識することができたことです。今回は訓練でしたが、次は要救助者がいる時かもしれません。

そのため、登り降りだけで満足しては、消防人として失格だと思っています。

もっと体力・技術・知識・心構えを強化するとともに、どの訓練でも要救助者がいることを想定して、今後、訓練に励みます。



石神 佑将
(大曲仙北広域市町
 村圏組合消防本部)

登山は、初めての経験でした。思っていたより険しかったです。

必要最低限の荷物で登りましたが、実際の山岳救助になると倍ぐらの重さになると思いました。

個人の装備はもちろん、毛布や担架などを持って行くと思うとかなり厳しいと感じました。

山岳救助の殆どが遭難で道から外れているので、重装備で道のないところを探すのは大変です。

鳥海山は雪道もあり滑るため、思った以上に体力を使いました。

今回は要救助者がいませんでしたが、怪我をした人を搬送する場合は足もとが悪く大変だと思いました。

また、霧で周りが見えなくなるころがありました。

自分がどこにいるのか、進む方向も分からなくなりそうでした。

山岳救助では、その山についてしっかり知っておかないと、自分が危険なことになると感じました。

私の本部にも山岳救助隊があるので、活動する場合には、その山について全て知るつもりで準備したいと思っています。

今回の登山が良い経験になったので良かったです。



谷藤 桂吾
(湯沢雄勝広域市町
 村圏組合消防本部)

鳥海山の山岳訓練は、頂上までの道のりが過酷で大変だった。由利本荘市の講師の方が仰っていたように自分で二つの目標を決めて登った。

一つ目は、四六人全員で頂上まで登るとのことだ。残念ながら全員ではなかったが、一人一人が支え合い協力し合って登ることができたので、七五期の絆が深まったと思う。

二つ目は、体調管理をしっかりすることだ。自分一人が体調を崩して登れないと、全体の活動に影響が出てしまうので大事だ。結果として健康状態に異常なく登ることができた。しかし、持参した着替えが少なく、汗をかいてとても寒かったし、食料や水も足りなかった。

次の訓練では、少し余る位の着替えや食料、水を準備しようと思った。目標を決めて登山することにより、新しい発見や必要なことにも気づくことができた。

人命救助の前に自己管理がなくなると要救助者を助けられないし、自分の命を落とすことにつながるので気をつけたいと思う。

所属の湯沢雄勝は森林面積が大きいので、山岳救助の要請に備えて、しっかりと準備をしておきたい。



秋 田 県
消 防 学 校

初任教育第七五期修了式
四六名修了第一線での活躍を期待

秋田県消防学校第七五期初任教育の修了式が九月一七日(金)、同校の屋内訓練場で、各消防本部消防長など約八〇名が出席して行われました。四六名の修了生は、六ヶ月間の厳しい訓練を乗り越え、明日から、それぞれの所属消防本部に着任し消防士として活動することになります。

修了式は、加藤学校長が修了生の代表者に修了証書と成績優秀者に表彰状を授与した後、秋田県知事あいさつ(代読)、来賓祝辞(工藤秋田県消防長会長・高橋秋田県消防協会会長)と続き、修了生が答辞を述べ、最後に校歌を演奏して終わりました。

表彰状授与

優 秀 賞 (四名)

- 秋田市消防本部 武田 佳輝
- 秋田市消防本部 遠藤 敏希
- 秋田市消防本部 工藤琉希也
- 秋田市消防本部 佐藤 友飛

功 勞 賞 (五名)

- 秋田市消防本部 加藤 翔磨
- 鹿角市広域行政組合消防本部 畑澤 壱希
- 大曲仙北広域市町村圏組合消防本部 鈴木 京介
- 秋田市消防本部 塚田 竣
- 湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部 藤原 慶人



学校長式辞 (要約)



秋田県消防学校
学校長
加藤 金孝

皆さんはこの半年間、寝食をともし、お互いに語り合い、友情を深め、楽しみや苦しさを共有してきました。

時にはライバルとして競い合い、時には仲間として励まし合い、支え合った仲間との厚い友情が、皆さんの成長に大きな役割を果たしたと思います。

この絆は、これからの消防人生において、大きな財産となるはずです。

皆さんは、明日からそれぞれの所属に戻り、第一線の業務に就きます。多くの厳しく困難な現場が立ち回ることだと思います。

しかし、脈々と築かれてきた消防精神を胸に各自の役割を果たし、一致協力して立ち向かうことにより、必ずや乗り越えることができるでしょう。

自ら選択した消防人生です。初心を忘れず、夢を持ち続け、信念を貫き、勇気を持って職責を果たしてください。

事故や健康に留意されて実り多い人生を歩まれ、大いに活躍されることを心から祈念しております。

修了生答辞 (要約)



秋田市消防本部
消防士
加藤 翔磨

仲間と共に、厳しい訓練や座学、トレーニングに取り組んだ時間がお互いの絆を深め、社会人、消防職員として成長することができました。

近年、地震や異常気象による大雨、土砂災害など各種災害による悲惨なニュースは後を絶ちません。こうした中で、私たちは地域住民の安心安全を守り、困っている人を助けたいという強い思いと使命感を忘れず、消防業務に尽力して参ります。

この半年間、この消防学校で培ったことを胸に、各地域そして秋田県消防の更なる発展に資することを誓い、答辞といたします。





75期 初任教 半年間を振り返って
秋田県消防学校

秋田市消防本部 加藤 翔磨

総代として学生をまとめることが、とても大変だと感じました。今までリーダーとしてチームをまとめたことがなかったので、とても貴重な経験となりました。同じ学生でも年代が違い、常識も違うということを感じることができたので、この経験を職場でも活かしたいと思います。

秋田市消防本部 塚田 竣

厳しい訓練や体力錬成を経て消防人の心構えができました。また、行事や集団生活を経て同期との思い出も作ることができました。今後は、現場で経験を積み、市民から信頼される消防士になるよう精進していきます。

秋田市消防本部 石田 芽衣

不安だらけだった入校式から半年間、多くのものを学び、消防士としての一步を踏み出せたのではないかと思います。初任教育で学んだことを糧に、職場でも精一杯頑張っていきたいです。

大館市消防本部 藤原 昂太

半年間で多くの知識や技術を学びました。各教官から、また学生間で教えあつたり、学生達と考えて行動したりと現場でも重要なことを訓練を通して学びました。

所属に戻り現場に行っても、学んだことをしっかりと実践していきたいと思っています。

由利本荘市消防本部 高橋 駿

最初は不安がありました。多くの仲間と素晴らしい教官に恵まれ、とても充実した日々を過ごせたと思います。

家族より長い時間を過ごした仲間ができ、とても楽しい半年間でした。

署に戻ったらしばらく会えないですが、次に会う時は、自信に溢れた消防士として、たくましい姿で会えるように頑張りたいです。

にかほ市消防本部 齋藤 混平

この半年間で知識・技術だけでなく、人間性や生活態度など様々な面で成長したと思います。

しかし、まだまだ未熟で足りない所も多く市民の求める消防像には及ばないので、全てにおいて磨きを掛け感謝を忘れず成長し続けたいです。

横手市消防本部 照井 大瑛

採用後、半年が経ち消防の仕事の細かく知ることができた。

実際に座学や訓練を行うことで、小さい頃から想像していたことと繋ぎ合わせられた。

また、実務研修を通じて事務仕事も学ぶことができたので、より上達するために先輩方に質問しながら、今後の業務に当たりたい。

鹿角広域消防本部 畑澤 彦希

初任教育では、消防に関する知識や訓練等を通じて、技術の修得に向けて努力しました。

初任教育で学んだことをこれからの人生の糧として、日々努力を続け、地元・地域に貢献できるよう精進したいと思います。

能代山本広域消防本部 佐々木柊翔

この半年間で沢山の新しい経験をしました。

私は他の人と生活するのは初めてだった。その仲間と平日ずっと一緒にいて、毎日のように訓練することで一体感が出たと思う。

大変と感じる訓練もあつたが、仲間とともに最後までやり抜けて良かった。

湖東地区消防本部 樋渡奈留人

慣れない寮生活や厳しい教官、厳しい訓練と今までは違う環境に四苦八苦しりましたが、同期と協力し助け合うことで乗り越えることができました。

消防士としてのスタートラインに立った今、自分の未熟さを自覚し、日々貪欲に成長していきたいと思えます。

男鹿地区消防本部 大高 稀尋
最初は新しい環境で生活することもあり、一日一日が大変で長く感じました。

しかし、人は慣れる生き物です。この半年間で、自分は高校生から消防士になったんだと実感しました。

大曲仙北広域消防本部 鈴木 京介
振り返ってみると、楽しい時もあれば辛い時もあった。

逃げ出しそうになった時もあったが、自分はなぜ消防士を目指したのか思い出すことによって、何とかここまで来られた。

だが、消防人生は始まったばかりだ。きつと素敵な未来が待っているだろう。

大曲仙北広域消防本部 高貝 柁斗
半年間という短い期間でしたが、四六人の仲間と共に厳しい訓練を乗り越えた時間はとても濃厚なものになりました。

心が折れそうな時でも、この仲間がいたから頑張れました。

この消防学校で過ごした日々をこれから糧とし、離れてしまいますが、お互いの場所で、市民のために全力で頑張りたいと思います。

湯沢雄勝広域消防本部 藤原 慶人
入校してから半年が経過した。消防の世界に身を投げ様々な経験をし、自分に足りないものを補った。一人ではできないことも、四六人の同期の助けで乗り越えてきた。大切なことを多く学んだので、この気持ちを忘れずに、これからも成長したい。



モリタ消防ポンプ
桜ホース・ソフト吸管
各種消火器

シバラポンプ
消防被服一式
消防機器一式

株式会社 **能代消防センター**
株式会社 **協立**

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)
猿田興業ビル3F FAX 018 (824) 3651

支部情報アラカルト

鹿角支部消防訓練大会中止に伴う教養訓練を実施しました

令和三年度秋田県消防操法訓練大会が中止になったことを受け、当支部では臨時評議員会を開き、鹿角支部消防訓練大会も中止することを決定しました。

当支部において消防訓練大会は、団員の技術力向上や士気の高揚を図る重要なものと位置づけていることから、中止による団員の技術及び士気の低下が懸念されました。

そこで、各分団二回以上の教養訓練を実施することが第二回評議員会で決定されました。

この教養訓練は、消火活動の基本である消防操法訓練をはじめ、救急



訓練や救助訓練など様々な選択肢を分団に与えており、訓練の立案では一歩踏み込んだ実践的な訓練になるように、分団を担当する消防職員も参加し計画しました。

鹿角市消防団では、管轄する分団が集まり、複数隊が中継する放水訓練を実施しました。

また、小坂町消防団では、災害現場をはじめ、家庭や職場など日常生活においても対応できるように、全団員に普通救命講習の受講を計画し、心肺蘇生法、AEDの取扱い及び固定法などを学びました。

コロナ禍で制約がかかる中でこの活動を模索して、団員の技術の向上、士気の高揚を図り、地域の安全に努めていきたいと思えます。



火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	令和3年		令和2年			同期比較	
	9月	累計	9月	累計	年計	9月	累計
建 物	11	144	8	105	173	3	39
林 野	2	22	2	22	24	0	0
車 輛	3	23	3	20	27	0	3
その他	6	73	10	73	82	- 4	0
合 計	22	262	23	220	306	- 1	42
死者数	0	19	2	12	24	- 2	7
負傷者数	1	39	4	30	60	- 3	9

〔情報提供〓鹿角支部〕



トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋 田 県 代 理 店

総合防災設備センター

株式会社 高 義 商 会

(営業種目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消 火 器 各 種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880
FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- 消防設備保守点検
- トーハツポンプ
- キンパイホース
- 各種消防機械器具
- 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp